

日時 令和元年11月21日(木) 18時30分～20時00分

場所 合人社ウェンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)南棟4階協議室

出席者 (委員) 柿本委員長、阿部委員、脇谷委員、弘中委員
(プラザ) 谷川館長、中森主任

議事及び会議要旨(以下)

議事1 令和元年度事業進捗状況について

事務局から、令和元年度事業進捗状況について報告があり、意見が交わされた。

○パソコン講座上半期、人材バンク、ボランティアきっかけづくり、市民活動きっかけづくり、人材育成講座、ロビー展示、ロビーコンサートなど開催済みの事業について、アンケート結果なども踏まえながら説明。

・市民活動人材育成講座などについては、新規参加者が多いのか。

○半分くらいは新規参加者になっている。

参加者の傾向については、市民活動や地域活動に関わっている方が半分くらいで、あとは仕事や個人的な必要性から参加している方も多く、事業目的から考えると、募集の際の工夫が必要かもしれない。

ただ、講座内容は市民活動等を題材にしており、個人的な興味で参加された方が、活動している方の話を聴いて市民活動等に興味を持つことも考えられる。

・市民活動きっかけづくり講座では、食品ロスの問題を取り上げているが、講座実施の結果や参加者の感想はどうだったか。

○参加者の満足度は100パーセントで、新規参加者も多く関心の高さが伺える。参加された方は興味があれば講座の後にも団体の活動に参加でき、市民の活動参加を後押しできた。

また、プラザの講座では珍しく平日の昼間に開催したが、まずまずの参加者数で、新たな参加者層も開拓することができた。

・参加者の人数制限などはあったのか。

○一応定員は設定していた。なるべく受け付けたかったが、活動体験の受け入れ先が小さな作業場で4人くらいしか受け入れができなかったため4回に分けて受け入れてもらった。

・中央公民館などは、中国の方や外国の方が多いので語学講座なども力を入れていようである。

○公民館によっては、語学講座や日本語講座なども力を入れており、外国の方と日本人のつながりの場にもなっている。このような講座については地域に密着した公民館だからこそ効果があるのだと思う。生涯学習の1つとして語学学習は位置づけられるので、公民館などと共催して全市的なつながりができる事業を実施することも考えられる。

議事2 まちづくり市民交流フェスタ結果報告について

事務局から、まちづくり市民交流フェスタについて報告があり、意見が交わされた。

○現時点でのアンケート内容について(中間報告)

当日ボランティアのアンケート結果及び参加団体(提出依頼中)・来館者アンケート(集計中)について報告

○来場者数4,570名で昨年度より若干減少している。ただ昨年度よりも賑わっていた屋外の人数についてはカウントできていないので、中に呼び込む工夫やカウントの仕方も今後の課題である。

- ・今回は公民館まつりやその他のイベントも多かったと思うが、実施時期についてはあまり変えないほうが良いのではないか。
- プラザの場合、優先利用などの予約が1年以上前から入ることがあり、公民館まつりなどの情報が出る前に決めないと日程が取れなくなることがある。次回も空いている日程が少なくなっていたため10月末の日程を押さえている。秋はさまざまところでイベントがあるため重ならないようにするのがかなり難しい。
- ・展示・体験(相談)コーナーのPRがもう少し必要だと思う。
- ・来館者の入りやすい雰囲気作りや集客効果のあるものを近くに置いておいて、展示コーナーにも入ってもらう工夫が必要である。
- 来場者アンケートと当日ボランティアアンケートについては、満足度は高かった。
来場者にはいろいろな体験もしてもらっているようである。
- 参加団体にも、キックターゲットなどで集まった来場者を引き込む努力が必要である。
- ・アンケートを見ると、当日ボランティアの学生さん達も参加団体と交流し、ボランティア同士でもつながりができ、何かを得ることができたのではないか。
- 当日ボランティアの募集先も年々増えており、いろいろな大学から参加してくれている。
なるべく参加団体と関われるような場所に配置をしておき交流になっている。
今回、かなりの人数が集まったので、その学生ボランティアにバザーやイベントなど1コーナーの企画を担当してもらうことを考えても良い。
- ・ボランティア経験は、大学の単位になったり履歴書に記入できたりするのだろうが、どういった理由であっても、参加することで市民活動団体と交流し市民とふれあえる体験ができるなら、もっと参加してもらいたいと思う。
- 来年度の日程は上記の理由から、10月31日～11月1日にすることに決定。
第5土曜日のためほかの公民館まつりなどと重なりにくいと思われる。
- ・6階ロビーに出たところで、コーヒーやお菓子を販売していたが、座って休憩できる雰囲気ではなかった。休憩スペースをわかりやすくしたほうがよい。
- ・現在のやり方でのフェスタの実施が限界にきているように思う。
参加した団体や市民スタッフなど、市民の目線でフェスタ全体を整理し直し、新しいやり方等を模索する時期に来ていると感じる。
- ・人材バンクのまつりが元になっており、その関わりも重要である。
- ・これまではフェスタが終わった後、参加団体にアンケートを出してもらっただけで、実行委員会として集まり結果を話し合う場がなかった。終わった後になるのでなかなか集まらないとは思いますが、次に繋げていくためにも、そういった反省会等が必要なのではないか。
- ・職員がすべて準備して開催していくよりも、参加団体やボランティア、市民スタッフの力やアイデアで、市民自らが運営していく手作りのまつりにしていかななくてはならないと思う。
- ・参加団体ではない中立的立場の市民スタッフが必要で、講座などでそういったフェスタ専門のスタッフを育成し実行委員会を運営していく方向に持っていくと良くなるのではないか。
- ・以前は、毎年公募でフェスタの企画運営スタッフを募集して実行委員会を運営していた時期もあったが、プラザやフェスタとは関係ないメンバーが集まり、全体の運営ではなく自分達のやりたいことを始めたため参加団体や実行委員会全体の方向性と離れてしまっていた。そういった状態にならないためにも、全体を見ることができ人物を中心に据えて職員と連携して継続的に運営していくことが必要である。
- ・市民スタッフを育成してフェスタ運営の中心として動いてもらうには、今から来年度の事業計

画に組み込んでいかななくてはならない。来年度までに中心となる人物を選定し、春には講座等の形でスタッフの育成を始め、職員の力を借りながら来年度のフェスタを企画し実行委員会全体を運営できるスタッフを育てていくことが必要である。

- フェスタの実施には運営母体が必要で、最初は人材バンクという組織があり母体となって開催していた。現在は参加団体が公募となり、毎年違う団体が集まるため継続的な母体にするのが難しく、職員が運営の半分以上を担い参加団体に少し手伝ってもらう形式でやっている。その母体を市民スタッフが担い、主体となってやっっていこうとするとその育成や組織作りにはかなりの時間が必要になる。
- 公民館などであれば地縁や登録団体などがあり、それを主体に新旧交代しながら継続した組織として実行委員会を運営していくことも可能であるが、プラザは全市施設であるためそういった繋がりが薄く、すぐにそういう形態にはするのは難しい面がある。
- フェスタの企画運営に関わる市民スタッフの育成に関しては、人材育成には時間がかかるうえ、フェスタの方向性も検討する必要がある、来年度事業に組み込むことは難しい。再来年度以降の課題となる。また現在のように職員が中心となって運営する形も職員の負担は大きい、市民スタッフが中心となって運営する場合、職員の負担がより大きくなるため慎重な検討が必要である。
- フェスタの趣旨を理解し職員と一緒に進めていける中心人物の選定も重要になる。そのような人物が2～3人いれぱうまく回っていくように思う。
- 貴重なご意見をいただいたが、すぐには結論が出せないため、今後の課題として預からせていただき、フェスタの方向性も含め職員でも話し合っていきたい。

議事3 次期指定管理公募の進捗状況について

事務局から、次期指定管理公募の進捗状況について説明。

○現時点での状況説明が行われた。

9月末に財団から申請書を提出、11月に広島市の面接があり、12月議会を経て次の指定管理者が決定する予定

【次回の運営委員会】

令和2年3月の予定。(日程は後日調整する。)

閉会